

あかるく かしこく たくましく

令和6年7月23日 No. 17 文責：校長 佐野紳二

終業式・代表児童の話

1学期の終業式では、児童会の代表児童と2年生、4年生の代表児童が、それぞれに1学期の振り返りと夏休みにやってみたいことや2学期の活動について話をしてくれました。それぞれ、とても立派な内容だったので、校長の話と同じように話の概要を紹介させていただきます。

*それぞれの話は文字にした時に読みやすいように、校長が少しだけ手直しをしました。

1学期を振り返って・2学期に向けて

児童会代表児童

1学期の児童会活動は、「にこにこあいさつカード」「みんなのスマイル掲示板」「ありがとうチャレンジ」がありました。にこにこあいさつカードでは、いつもより各学年が意識してあいさつをできていたと思います。みんなのスマイル掲示板では、普段見られない他の学年のことをより知れたと思います。ありがとうチャレンジでは、呼びかけを行うことでみんなが意識して感謝の気持ちを伝えられていてよいと思いました。1学期はこの活動があったからか、学校全体があいさつでいっぱいになり、学校がとても生き生きしたように感じました。これらの活動がないときも、意識してあいさつができるといいですね。



2学期は、1学期に引き続き「にこにこあいさつ」と「ありがとうチャレンジ」があります。1学期よりもあいさつとありがとうの声が増えればうれしいです。また、新しく「脱出おそうじマップ」の活動があったり、運動会やゲーム集会もあつたりします。どの活動にも積極的に参加し、小笠原小学校のきずなが深まるようにしていきましょう。

1学期にがんばったこと・夏休みにちょうせんしたいこと

2年生代表児童

2年生になったいろいろなことに挑戦しました。算数ではいろいろな単位を学びました。筆算もできるようになりました。L（リットル）やcm（センチメートル）の計算もできるようになりました。単位どうして計算することができるようになりました。生活科ではミニトマトを育てました。ミニトマトが成長して、赤色になってうれしかったです。また、虫と仲よくなるための学習をしに、オオムラサキセンターに行きました。水せい昆虫や甲虫など、いろいろな虫がかんさつできて、とてもうれしかったです。

夏休みにたくさんやりたいことは、自主学習をすることです。それから、家庭読書もたくさんしたいです。これで終わります。



1学期にがんばったこと・夏休みに向けて

4年生代表児童

私が1学期にがんばったことは、代表委員としての仕事です。大変だったのは、休み時間を使って話し合いに出て、内容をクラスみんなに伝えることでした。ほかに1学期にがんばったことは算数です。特に難しかったのはわり算の筆算と小数の勉強でした。でも、教科書をよく読んだり計算練習をしたりしたので、できるようになりました。



夏休みには自由研究をがんばりたいです。山梨県に引っ越してきたので、富士山のことを知りたいと思うので、富士山ミュージアムへ行って富士山の歴史のことを調べたいと思います。また、山梨県の特産物である宝石を使ったジュエリー製作体験をしたいと思っています。

おまけ 夏の雑学あれこれ

☆≡ かき氷のシロップの味は…

イチゴ・レモン・メロン・ブルーハワイ。これらのシロップの味付けは**すべて同じ**のだそうです。違いは着色料と香料。見た目の香りによって脳が錯覚を起こすため、違う味に感じるそうです。目隠しをして、かき氷の味比べをしてみると面白いかも知れませんね。



☆≡ アイスの賞味期限は？

永久的に品質を劣化させずに保存できるので、**アイスに賞味期限はない**そうです。ちなみに、バニラアイスに醤油を数滴たらして食べると「みたらし団子」の味になるそうです。ぜひお試しください。

☆≡ 夏休みって、いつからあるの？

夏休みが始まったのは**明治14年**。小学校教則綱領の第7条にて『小学校ニ於テハ日曜日、夏季冬季休業日及大祭日、祝日等ヲ除クノ外授業スヘキモノトス』と定められました。全国に小学校ができたのが明治6年なので、最初の8年くらいは、夏休みはなかったようです。

☆≡ セミの鳴き声は、スマホ越しだと聞こえない？

スマホをはじめとする携帯電話が対応している周波数は300~3500hzなのですが、セミの鳴き声は4000hz以上なので、**セミの鳴き声は相手には聞こえない**のです。同じ理由から、鈴虫の鳴き声も聞こえません。ちなみに、加齢とともに聞き取りにくくなる高周波音のことを「モスキート音」と言いますが、実際の蚊の羽音は350~600hzで、誰にでもよく聞こえます。

☆≡ ラムネに入っている玉の名称は

「そんなのビー玉に決まってるじゃん！」という声が聞こえてきそうですが、実はアレ、ビー玉ではなく**エー玉**というそうです。昔、ラムネに使用していたのが**A玉**で、生産の過程で傷が入ったりすると中の炭酸が抜けてしまい、使えなかったそうです。傷が付いて使えなくなったA玉を**B玉**として売ったら広まったという、嘘のような本当の話でした。(ビードロの「ビー」など、諸説あるようですが…)

